凡　事　徹　底

当たり前のことを当たり前に

蕨市立第二中学校
学校だより
令和５年度
第６号（１０月号）

行事を終えて、行事に向けて

校長　椿　智絵

９月に行われた体育祭は、生徒たちの頑張りで大変素晴らしい体育祭になりました。今年は特に、夏の暑さがいつまでも続き、体調の維持が難しい中、生徒たちは本番に向けて学級で、学年で、全校で、練習を積み重ねていました。その成果が存分に発揮できた体育祭になったと思います。

開会式のあいさつでは、「高校野球の優勝チームの選手たちが、ピンチでも笑顔でプレーしていたという話」を取り上げて話しました。

「いい相手と、いい環境でできることに感謝し、自分たちの力を発揮するためにも、下を向いてくよくよするとか、緊張してがちがちになるよりも、いい顔してやった方が、お互いにいいプレーができる、いいパフォーマンスが出せる。

今日の体育祭でも、相手を尊重し、クラスの力が存分に発揮できるよう、みなさんの笑顔がたくさん見られることを期待します。」

この話のとおりに、生徒たちは良い顔で、お互いを尊重し合って、競技に熱心に取り組んでいました。生徒の頑張る姿はいつ見ても清々しく、感動を与えてくれると実感しました。

また、１・２年生で臨んだ新人体育大会二市予選会も行われました。３年生の引退後、新チームで行う初めての公式戦。どの部活動の選手も緊張で一杯だったように見えました。しかし、競技が始まると、これまでの練習の成果を発揮し、全力でプレーしていました。

大会は、勝敗を決めるもの。勝つ選手（チーム）は１人（１チーム）だけです。勝ち続けるということは、とても大変なことです。だから、それを目標に頑張ることが大切になります。この二市大会の結果が、これからの活動に生かされることを期待します。

そして、次は「蕨二祭」です。私の失敗談は、

① 合唱の声がどうにも小さく、不安が一杯だった学級で、サビの部分で手拍子のフリをつけたら、サビになったとたんに恥ずかしさからか声がさらに小さくなってしまった。

② 「ゴスペルがやりたい」と生徒に聞かせた曲が当時はやっていた「ゴスペラーズ」で、その気になった生徒がゴスペラーズの楽譜を見つけてきた。生徒はベースパートを歌いたがったが、難しすぎて挫折。本番までになんとか歌えるようになったが、歌いこむところまでは行けずに、不完全燃焼のまま本番を迎えてしまった。

これらのことで学んだことは、「奇をてらう」のではなく、堅実に、正攻法で臨むことでした。基本を大切に、当たり前のことを当たり前に着実に行うことが、やはり一番なのだと思います。

最後に、合唱祭についての記事を一つ。

…数年前、合唱祭を参観した時の話です。どのクラスともすごく完成度が高く、さらに「優勝したい」という気持ちもしっかり伝わってくるものでした。相当練習したのだろう、クラスの取組方が伝統になっているのだろうと感じていました。

終了後、体育館から教室へ向かう廊下で私の前の２人の女子が話します。「負けたなぁ」「うん…」「でも、やれることやったから…」「やったなぁ。むっちゃ練習したなぁ」「せやから、ええねん。仕方ないわ。精一杯やったって、うちら」「そうやんなぁ。しんどい時もあったけど、うちらのクラス、よー頑張った（笑）」「（笑）今、なんかサイコーやわ」「勝ち負けなんか、関係ない気分や」「そうそう」「…せやのに、なんで涙が出てくるんやろう」「…」

第二中学校の蕨二祭が充実感あふれるものになるよう願います。

《学校教育目標》
自ら学び、深く考える生徒　（知）
心豊かで、思いやりのある生徒　（徳）
たくましく、健やかな生徒　（体）

蕨市立第二中学校
電話：048-443-2670 FAX：048-443-2671
URL：http://www.warabi.ne.jp/~warabi-2/
e-mail：warabi-2@warabi.ne.jp